

(別添3)

平成29年度 厚生労働科学研究費補助金

(難治性疾患等政策研究事業(免疫アレルギー疾患等政策研究事業(免疫アレルギー疾患政策研究分野)))

総括研究報告書

食物アレルギーに対する栄養・食事指導法の確立に関する研究

研究代表者 海老澤 元宏 国立病院機構相模原病院臨床研究センター

研究要旨

本研究班では、食物アレルギーに関する栄養・食事指導の知識の普及・啓発と患者・保護者による自己管理を進めるために、「食物アレルギーの栄養食事指導の手引き(以下、栄養食事指導の手引き)」を改定し、これに対応した患者の自己管理を促す資料を作成し、情報発信することを目標とする。

昨年度は、この5年余の食物アレルギーの予防・診断・管理・治療等に関する進展を論文・出版物より取り纏め、検討会にて改訂版「栄養指導の手引き」に載せるべき情報を決定した。主な改訂ポイントは、食物アレルゲンの基礎知識、食物経口負荷試験後の食事指導法の考え方、

原因食物別の栄養・食事指導の確立(臨床的な交差抗原性を含む)、加工食品のアレルギー表示の改定について、保育所・園・学校での安全な給食提供の在り方の明示とした。

今年度は、研究分担者による原案作成、検討委員会での修正を経て、最終的に食物アレルギーに関係する外部機関からのコメントも参考にしながら改訂作業を終了し、平成30年1月にweb上に公開した。また補足として、食物アレルギーの日常診療の疑問に答えられるようなQ&Aを作成し、web上に公開した。

研究分担者

今井 孝成	昭和大学医学部 小児科学講座
伊藤 浩明	あいち小児保健医療総合センター
高松 伸枝	別府大学 食物栄養科学部
佐藤 さくら	国立病院機構相模原病院 臨床研究センター 病態総合研究部
林 典子	学校法人ソニー学園湘北短期大学 生活プロデュース学科

A. 研究目的

食物アレルギーの管理はこの15年余の厚生労働科学研究において大きく進展した。「食物アレルギーの診療の手引き」を2005年に発刊し、その後3年毎に改定し診療に大きな影響を与えてきた。しかし、全国的な診療の均てん化にはほど遠く、現在も大多数の食物アレルギーの患者や家族において日常の食生活の質の低下は改善できていない。その理由の一つとして食物アレルギーの初期診療において栄養・食事指導が十分に行われずに保護者の不安が大きくなること

挙げられる。

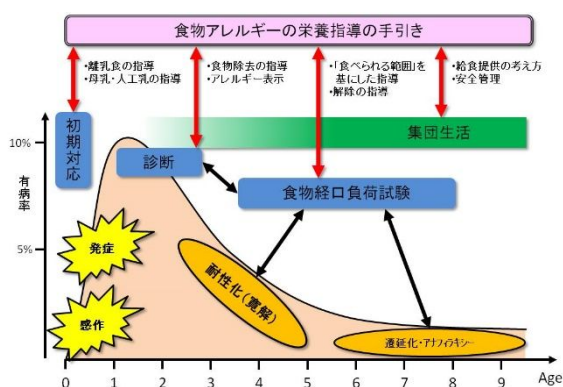
本研究班では、食物アレルギーに関する栄養・食事指導の知識の普及・啓発と患者・保護者による自己管理を進めるために、厚生労働科学研究班において2011年に改定されて以来アップデートされていない「食物アレルギーの栄養指導の手引き(以下、栄養指導の手引き)」を最新の情報を取り込み改定し、これに対応した患者の自己管理を促す資料を作成し広く全国に情報発信することを最終到達目標とした。

B. 研究方法

食物アレルギーの予知・予防・診断・管理・治療等の研究に関して、研究代表者および研究分担者がこの5年余の進展を論文・出版物より取り纏め、情報を取捨選択する。その後、検討委員会にてわが国の実情に合わせて手引きに載せるべき情報を決定した。具体的な項目として、診療における管理栄養士の業務・役割の明示、

原因食物別の栄養・食事指導の確立（臨床的な交差抗原性を含）、食物経口負荷試験後の食事指導法の確立、加工食品のアレルギー表示の改定、保育所・園・学校での安全な給食提供の在り方の明示などに関して検討を進める。最終的に食物アレルギー患者と関わりのある関係各所から外部コメントを募集し、改訂作業を終了する。作成物は年度内にweb上での情報発信を開始する。

また「食物アレルギー診療ガイドライン2016」および改訂版「栄養食事指導の手引き」を基に、患者自己管理を促す資料の開発を行い、同じくweb上での情報発信を行う。



C. 研究結果

昨年度は、この5年余の食物アレルギーの予防・診断・管理・治療等に関する進展を論文・出版物より取り纏め、検討会にて改訂版「栄養指導の手引き」に載せるべき情報を決定した。主な改訂ポイントは、食物アレルギーの基礎知識、食物経口負荷試験後の食事指導法の考え方、原因食物別の栄養・食事指導の確立（臨床的な交差抗原性を含む）、加工食品のアレルギー表示の改定について、保育所・園・学校での安全な給食提供の在り方の明示とした。

今年度は、昨年度作成された原案をもとに、検討委員による修正作業を行った。最終的に食物アレルギー患者と関わりのある関係各所から外部コメントを貰い、改訂作業を終了し、平成30年1月に「食物アレルギーの栄養食事指導の手引き2017」を公開した。また補足として、食物アレルギーの日常診療に関連する疑問に答えられるようなQ&Aを作成し、web上に公開し

た (<https://www.foodallergy.jp/faq/>)。

D. 考察、E. 結論

今回の改訂作業により、最新の食物アレルギー診療に応じた栄養食事指導の手引きに改訂することができた。食物アレルギー診療の進歩は目覚ましいため、今後も定期的な見直しが必要である。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし